巻頭言

「災害から市民の命を守る」

神戸市消防局長　長岡　賢二

神戸市は、令和元年度に市制130周年を迎えました。

古くから港町として、ファッションや神戸ビーフ、パン、洋菓子、灘五郷の清酒・ワインなど幅広い分野の特色ある産業が集積しています。豊かな自然環境と、美しいまち並みを誇る国際都市として発展してきました。

平成18年の神戸空港開港で、陸、海、空の3ウェイアクセスが整い、ビジネス、観光に理想的な利便性を備えています。世界有数の研究開発拠点である神戸医療産業都市では、世界初のiPS細胞を用いた手術が行われるなど最先端の取り組みが進められています。

海と山に囲まれた神戸の独特な地形は、自然の恵みを与えてくれる半面、大きな災害をもたらしました。昭和13年には集中豪雨により大水害が発生しました。川はあふれ、六甲山から土石流が市街地に流れ込みました。その様子は谷崎潤一郎の「細雪」にも描かれています。その後も、昭和36年、42年と水害は続き、昭和の３大水害と言われています。そして、今から24年前、平成7年1月17日5時46分に阪神・淡路大震災が発生し、大都市における直下型地震で未曾有の被害をもたらしました。建物の倒壊や火災により6,434名の尊い命が奪われました。

神戸市は、震災の経験を活かし、防災・減災に力をいれて取り組み「災害に強いまちづくり」を目指しています。消防局では、自然災害や都市型災害、テロなどあらゆる災害に対応するため、最新の知識、技術を導入し、施設、装備の整備を進めています。「住宅火災による死者を無くす」ため、CAFS 搭載小型タンク車などの消防車両を導入し、早期放水が可能となる部隊編成を確立します。

昨年は、災害級の猛暑、さらにインフルエンザの流行などもあり救急出動が過去最多となりました。急増する救急需要対策として、「自分で病院に行きたいけれど、交通手段に困っている」市民に、最寄の介護タクシーなどを紹介するコールセンター（おくる電）を3月に開設しました。救急相談ダイヤル「救急安心センターこうべ（＃７１１９）」の活用も引き続き呼び掛けていきます。

さらに、人口の増加が著しい神戸市西部のニュータウン西神南地区に、新たに消防出張所を整備し、防災拠点を強化します。

消防ヘリコプターは全国で唯一、兵庫県と神戸市の共同運航を行っています。林野火災、山岳救助や水難救助、災害現場の情報収集、ドクター同乗の救急出動など、多角的な活動で災害の広域化、大規模化に対応しています。

また地域防災力の要となる消防団活動の充実、強化を図るため、新たに車両等を追加配備します。
自主防災組織である防災福祉コミュニティの支援やVRを利用した防災教育、市民救命講習、事業所等の保安体制の構築などの取り組みも進めています。

これからも変化していく住民ニーズにしっかり対応して、あらゆる災害から市民の命を守るため職員一丸となって取り組んでまいります。